

会報

No. 25

平成3年8月1日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771-0069

平成三年度 京都府図書館等連絡協議会定期総会開催

六月七日、今年度の総会が八幡市立八幡市民図書館において開催されました。

当連絡協議会の橋本實会長の挨拶、八幡市教育委員会佐々満郎教育長の来賓祝辞に続いて、日本図書館協会よりのメッセージなど披露されました。

次いで、今年度の職員表彰が行われ、図書館活動に対し功績のあった十七名の職員が表彰されました。

その後、加茂町立図書館の田中幸枝館長を議長に選出し議事が進められました。



市町村図書館の建設や資料費に対する補助金制度についての要望や、書誌情報の共有化についてなど、活発に討論がされ、今日京図連が果たすべき役割が一層明らかになりました。

事務局より提案のあった平成二年度会務報告及び収支決算報告、平成三年度の事業計画(案)及び予算(案)全て、提案どおり承認されました。

午後には京都大学教授上杉孝實氏の講演、「生涯学習時代の図書館の課題」を聞き、学習を深めました。

その後、八幡市立八幡市民図書館を見学して全日程を終了致しました。

会長挨拶

京都府図書館等連絡協議会

会長 橋本 實

生涯学習あるいは情報社会という言葉、毎日聞かない日がないほど社会は大きく変わろうとしています。平成二年度の府内の状況をみましても、ふるさと創生事業の一貫として、また生涯学習の面から施設・設備面で変わりつつ有ることは喜ばしいことであります。

このような状況の中で、住民の日常生活の中で身近な情報提供の場として、また生涯学習の場となります図書館の役割はさらに重要性を増していきます。しかし、まだ府内では未設置町村が二十五町村あり、一日も早く図書館ができることを望んでおります。

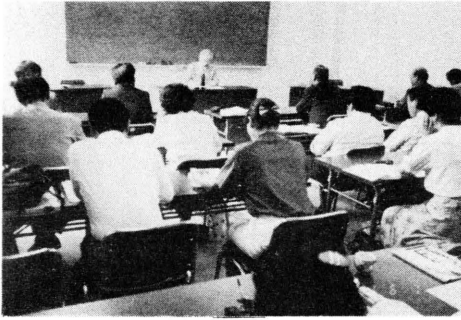
住民のニーズに答えられるべく、21世紀の図書館を目指して、今日的課題を踏まえていかなければならないと思います。

最後になりましたが、総会のためにお世話いただきました八幡市民図書館の皆様方にお礼を申し上げます。



平成二年度表彰者

田中 重夫	京都市右京図書館
小川美恵子	京都市中央図書館
木村 清一	京都市山科図書館
西村 夏栄	八幡市立八幡市民図書館
城戸 進	"
端野 律子	"
尾上日出丸	"
仁科 晴夫	"
平田 浩三	"
真下 慶子	"
小西 健一	"
杉本 文雄	京都ライトハウス点字図書館
馬場 順子	京都府立総合資料館
植田 光雄	"
比嘉 雅子	"
長谷川匡男	京都府立図書館
田中かず子	"



第一回理事会報告

今年度最初の理事会が五月十四日
京都府立図書館で開催されました。
平成二年度の会務報告・収支決算
報告について協議の結果、一部修正
のうえ承認されました。平成三年度
予算(案)の事業費について、各委
員長の要求に基づき協議のうえ、事
業計画(案)とあわせて承認されま
した。また表彰事業については、今
後被表彰者が増えることが考えられ
るので、上限を二十名程度とし、事
前に調整が必要で表彰費も五万円に
据置くことになりました。
今年度の総会は八幡市立八幡市民
図書館で開催されることになりまし
た。

役員等の異動

理事 新 森 善之	(京都府立図書館閲覧課長)
旧 小山 雄一	
新 北尾 辰雄	(久御山町立図書館長)
旧 川島 章夫	
新 太田 至郎	(京都府立総合資料館長)
旧 小嶋 一夫	
新 北川 恵三	(京都市中央図書館長)
旧 小嶋 健市	
顧問	
新 太田 至郎	
旧 小嶋 一夫	
新 北川 恵三	
旧 小嶋 健市	

館長の異動

京都市中央図書館	新 北川 恵三
旧 小嶋 健市	
京都市伏見中央図書館	新高橋 徹夫
旧 津村 俊勝	
京都市山科図書館	新 東 靖磨
旧 片山 善雄	
京都市醍醐図書館	新 三家多賀成
旧 福富 規之	
向日市立図書館	新 堀内 佳子
旧 林田 寛	
久御山町立図書館	新 北尾 辰雄
旧 川島 章夫	
京都府立総合資料館新	太田 至郎
旧 小嶋 一夫	

近公図研究集会予定

*整理部門研究集会	京都府立総合資料館	期日未定
*児童図書館部門研究集会	大阪府立夕陽ヶ丘図書館	期日未定
*参考事務研究集会	和歌山県立図書館	期日未定
全国公共図書館		
関東地区公共図書館協議会		
*整理部門研究集会		

テーマ

〔世代を繋ぐ収集・保存・活用〕

場所 神奈川県立音楽堂
日時 九月十二日～十三日

全国公共図書館奉仕部門研究集会
近畿公共図書館協議会

*奉仕部門研究集会

テーマ

〔新しい時代に応える
図書館奉仕を求めて〕

場所 奈良市ならまちセンター
市民ホール
日時 九月二十六日～二十七日

*全国図書館大会

テーマ

〔21世紀に向けて
図書館活動の輪を拓げよう〕

場所 徳島市文化センター
日時 十月二十二日～二十四日

京図連「二泊研修」のお知らせ

テーマ

〔魅力ある図書館にするために〕

講師 沢田 正春
事例発表……八日市図書館
場所 アイリスイン城陽

日時 十月十七日(木)十八日(金)
(城陽市総合運動公園内)

平成二年度会務報告

1. 京都府内の図書館をめぐる動き

本年度の図書館をめぐる状況としては、まず第一に施設・設備面での改善が進みつつあることがあげられる。七月には田辺町立図書館、十月には木津町立図書館が着工、十一月には和知町立ふれあいセンター図書室、十二月には舞鶴市立西図書館が新築開館した。八幡市では男山分館の建設が進められている。京都市では京都市久我のより図書館が八月に開館、引き続き二月、京都市吉祥院図書館が着工された。

今後、綾部市図書館の移転も計画されており、城陽市立図書館でも基本構想作成の後、来年三月には新図書館の着工が予定されている。

又、木津町、峰山町、大宮町、美山町では、三年度から移動図書館車が運行される。

全体としてみれば、建物面積、蔵書冊数とも規模の拡大が進んでいること、分館、移動図書館の新設に見られるように全域サービスを目指す方向でのとりくみがされていること、業務への電算導入も進められていること、この三点が特徴としてあげられる。

第二に、読書推進のための様々な

とりくみが進められていることがあげられる。読書週間の事業については、昨年度の21館・団体に対して28館・団体と増えてきており、日常的にも効果的な図書展示や、講座の開設、児童向けの事業などが行われている。

第三に、図書館間の相互協力が活発化してきている。

京都府立図書館が関わったものだけをとり、二年度には、五千三百五十七冊にのぼり、元年度の二千二百八十五冊に比べ、二・三倍にも増えている。

個々の図書館での資料提供についての努力に併せ、本年度九月より京都府立図書館連絡協力車の運行が月二回になったことが、なお一層の推進力となった。平成三年度には、北部地域への連絡協力車の運行が始められている。

第四に、公立図書館未設置町村の解消に向かっての動きが活発になってきたことである。現在京都府内には、公立図書館未設置が25町村に及んでいる。京都府立図書館では平成元年度より図書館資料広域貸出事業を開始し、連絡協力車の運行とあわせて現在10町で読書施設の開設、振興のための町村援助をしている。

その結果、新たに設置した図書室従来設置されていた図書室共予想を

はるかに上回る利用を得ている。

三年度には読書施設未設置の南山城村と、伊根、野田川、大宮、網野久美浜の北部各町に対しての図書館資料広域貸出事業を開始する。

この事業を機に図書館建設の機運が進み、日吉町では用地の買収が決定し、宇治田原町では町図書館等策定委員会が答申が出され、井手町では建設計画が動き出している。

このような様々の努力の中で、京都府全体の貸出冊数は六十三年度の六百三十二万三千八百冊から、元年度六百四十九万二千二十八冊へと増加してきており、二年度については現在調査中であるが更に大きい伸びが見込まれている。

2. 関係機関・団体との協力について

当協議会との協力関係にある機関・団体としては、主に日本図書館協会（以下「日図協」という）、京都府南部図書館等連絡協議会（以下「南図協」という）、京都家庭文庫地域文庫連絡会（以下「京庫連」という）がある。

まず、日図協との関係については当協議会が日図協の加盟団体（各都道府県ごとにおかれている地方連絡機関）の一つとして、その役割を果たしている。

昨年十月、第二回生涯学習フェスティバルの開催にあわせて、日図協京都地区個人会員との交流会と、今日の図書館問題についての認識を深めることができた。今後、個人会員施設会員ともに増加をめざし、ひきつづき努力していきたい。

次に、南図協との協力関係については、本会の研修研究活動を推進するうえで大きな関わりがあり、今後この協力関係を深めていく必要がある。

さらに、京庫連との協力関係については、本年度も共催の研修事業として講演会を開催した。事業を進めるにあたっては、今後とも十分協議していく必要がある。

3. 事業報告

研修事業としては、フェスティバルにあわせて日図協個人会員との交流会の開催、京都ライトハウス主催の「視聴覚障害者生活展」への参加と講演会の開催、京庫連との共催の講演会を実施してきた。

しかしながら、独自事業、研究グループの活動を十分に展開できず、今後大きな課題を残した。

相互協力事業としては、事業の発展に合わせて本年度実態調査を行った。現在、結果取りまとめ中である

が、今後の事業に貢献していくことが期待されている。

広報事業は、「会報」を三回（No. 22号～No. 24号）発行した。編集会議に際しても、各図書館の見学をかわせて行い、会報が情報の交流の場となるよう努力してきた。

各館の情報提供、投稿などによって豊かで身近かなものとなるよう努力してゆきたい。

表彰事業については本年図書館の事業並びに図書館活動の普及に尽力し、その功績顕著な十二名の職員に対し表彰を行い、故浜辺一彦前京都府立図書館長に対し特別表彰を行った。

次に、図書館振興に関する要望活動については、本年度はとくに、図書館未設置町村長・教育長、図書館設置市村・教育長に加え、京都府知事、京都府教育委員会教育長に対しても、第四次京都府総合開発計画に添った図書館施策の実施と図書館未設置町村の解消について要望書を提出した。

4. 財政報告

本年度の収支決算は、総会場で事務局会計より提出され、審議の上原案通り承認された。

5. 組織の状況

当協議会加盟館は、一館増え、44館（図書館 34館・公民館 7館・その他 3館）となっている。

当協議会未加盟館の町村で、現在公民館図書室等で図書館活動を行っている所については、当協議会の加盟を積極的に働きかけていくよう努力をしたい。

協議会加盟館紹介

京都市中央図書館	北川 恵三	丹波町中央公民館	秦 正音
京都市伏見中央図書館	高橋 徹夫	和知町立ふれあいセンター図書室	小島 功
京都市北図書館	古川 勝	京北町中央公民館	樋口 恒夫
京都市左京図書館	田中 敏子	美山町中央公民館	寺井 硯龍
京都市東山図書館	吉村 義夫	綾部市図書館	加藤 政男
京都市山科図書館	東 靖磨	福知山市立図書館	塩尻 史郎
京都市下京図書館	富田 純造	舞鶴市立東図書館	橋本 實
京都市南図書館	野村 牧男	舞鶴市立西図書館	稲葉 優適
京都市右京図書館	田中 重夫	大江町図書館	中西 俊夫
京都市西京図書館	吉田 久弘	宮津市立図書館	城下 萬吉
京都市洛西図書館	木南 克次	加悦町中央公民館	入柿 工美
京都市向島図書館	小林 昭	峰山町立図書館	細井 欣俱
京都市醍醐図書館	三家多賀成	丹後町中央公民館	下戸 明夫
京都市久我のもり図書館	林 義和	京都ライトハウス展示図書館	花光 勤
向日市立図書館	堀内 佳子	京都府立総合資料館	上村 邦夫
長岡京市立図書館	小泉 浩史	京都府立図書館	太田 至郎
大山崎町中央公民館図書室	八木伊佐美		林 芳男

田辺町立中央図書館 新設オープン

田辺町では平成二年七月から建設を進めていた中央図書館が平成三年五月に竣工し、七月六日開館しました。

施設の概要は、敷地面積四、一五九㎡に地上二階、地下一階建てで延べ床面積二、六四九㎡の図書館単独施設となっています。

施設の主な特徴としては、七五、〇〇〇冊の図書を開架する一、〇〇〇㎡の開架室内にレーザードイススクやビデオテープを視聴する映像ブースが6ブース（十二席）、コンパクトディスクやカセットテープの視聴リスニング席が十一席用意されています。

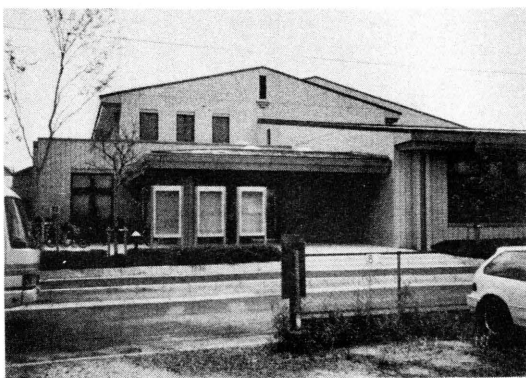
また、住民の方の文化活動の発表の場として、約六〇㎡のギャラリィが一階に設けられています。集会機能としては、ビデオプロジェクトや暗幕等を設置し、視聴覚機能を備えた六十四人収容の集会室と二十人収容の会議室が設けられています。

ニ ュ ー ス ・ N e w s

この他、児童奉仕のためのおはなし室や、障害者奉仕のための対面朗読室が設けられています。事務用の部分としては、一三五、〇〇〇冊収容の集密書庫や移動図書館車の車庫等が設けられています。

運営の特徴としては、平成元年に設置された分館機能を合せもつ、北部住民センター図書室とコンピュータでつなぎ、移動図書館の貸出しもコンピュータ処理を行い図書館システムの形成を図っています。

また、図書については貸出冊数の制限を撤廃し、二週間以内に読める冊数となっています。AV資料の充実も行い、ビデオテープ、レーザー



ディスク、コンパクトディスクやカセットテープを合計一、二〇〇タイトル収集し、レーザーディスクを除き、一人二タイトル以内での貸出を行っています。

目録では、冊子体目録のほかに、利用者用の資料検索端末機も用意しています。

今後、おはなし会等を実施し児童サービスの充実や障害者サービスの充実、映画会やCDコンサートを実施し、新しい利用者層の開拓と、より住民に親しまれる図書館となるよう努めていきたいと考えています。



図書館めぐり

京都市右京図書館

右京図書館は、太秦郵便局の建物を改修して、昭和五十七年八月に、京都市で八番目の図書館として開館しました。近くには、東映太秦映画村や広隆寺などがあります。

図書館は三方がガラス張りである、五万六千冊の蔵書があります。

開館後は多くの方々にご利用いただいています。平成二年度では、利用者は八万七千人、貸出冊数二十万八千冊となっています。

子供たちを対象に行っています「紙芝居と読み聞かせの会」も好評で、平成二年度には、千二百人からの参加者がありました。心に残る楽しい思い出の催しになるように、今後とも研さんに努めてまいります。また、「幼児コーナー」では、毎月テーマ別に絵本を展示し、貸出しをしています。

読書によって、感動できる本に出あったときの喜びは、計り知れないものがあります。

これからも、地域に根ざした図書館として、気軽に利用され活用される魅力ある図書館になりますように努力していききたいと考えています。

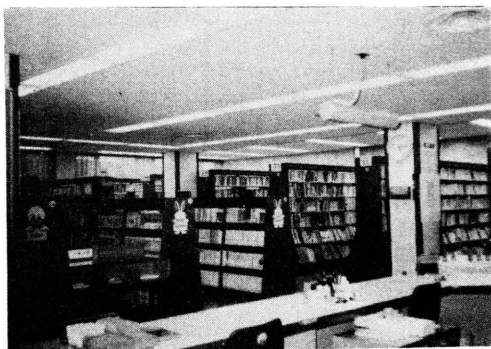
図書館散歩

京都市下京図書館

ぎらぎらと真夏の太陽に照らしやかれた大宮通りに、かげろうの囃がたちこもる。その中を絶え間なく走る自動車、やがて夕暮れとともに大宮道も静けさをたもつ一時もあり、西本願寺の土塀の中から鐘の音が微かに聞こえてくる。

下京区の中心を南北に縦断するこの通りは、平安京では大内宮城（大内裏）の東に接したためこの名称がつけられた、ともいう。

下京図書館は、大宮通りに面し、東西線に花屋町通がある。その交差





点西入り口を島原口という。

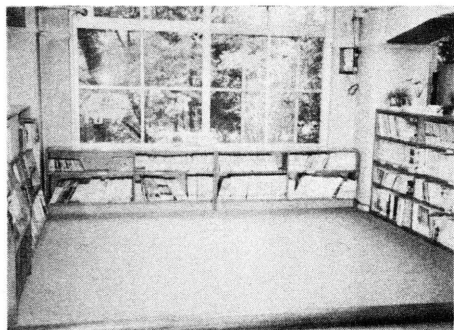
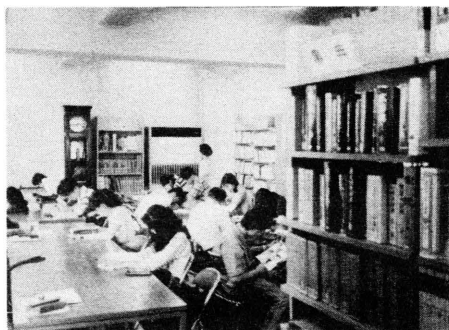
島原口に図書館があります。昭和二十六年四月に京都市社会教育会館として開館。図書の閲覧・貸出し、巡回文庫、視聴覚ライブラリー事業、集会所の提供など行ってきた。図書館業務としては、京都市で最も古く多くの市民に親しまれてきた。

昭和五十六年四月、京都市図書館整備計画の一環として、新しく地域図書館として、再発足するのを機会に館内を改修し、同年七月から個人・団体貸出しなどの図書館業務を開始した。

一階が児童図書室、幼児コーナー二階、成人図書室（文学書）、事務室で、三階は、成人図書（文学書以外）・参考図書室には閲覧コーナー四十席があります。六月現在、蔵書五万八千三百冊うち、児童書二万二

千四百冊、平成二年度の貸出者数は四万二千三十人、貸出冊数は十萬四千九百六冊であった。

特色としては、郷土資料、スポーツ、理科・科学、鉄道コーナーなどに資料の充実を計っている。



郷土資料をもとに、図書館の回りを紹介しますと、大宮通り島原口から、西本願寺を左に見て、花屋町通りに連なる商店街を西へ進むと、程なく島原の大門に出る。大門横の糸柳、積み重ねられた用水桶が、かつての廓の名残だろうか。大門右の標によれば「豊臣秀吉が京都を再興するにあたり、二条万里小路に廓（柳町の廓）を公許したが、寛永十七年（一六四〇）：当時の朱雀野に移った。はじめは西新屋敷と呼んだが、時あたかも九州島原の乱の直後であり、誰れかともなく島原というようになった。」とある。



島原大門横の糸柳と用水桶

大門を通り抜け、道を更に西へと行くと、重要文化財指定の角屋に出会う。正面全体に広がる格子造りなどが、往時の名残りを留めている。外にもこの辺りには、昔ながらの趣を残す建物を散見することができる。角屋の前を通り、南北に走るJR山陰本線沿いに南下すると、右手に昭和二年京都市が全国に先駆けて開設した「市民の台所」中央卸売市場が、ほぼ五条から七条までのび偉容を誇っている。

七条通りを南に横切ると梅小路機関車区に至る。小さなトンネルをくぐると鉄道開通百周年記念に造られた、わが国唯一のSLの殿堂、蒸気機関車館がある。JR各線からSLが姿を消して久しいが、ここ梅小路で、汽笛をならし白煙をあげて車庫から発進するD51やD52の勇姿を見るとき、その迫力に感嘆するのと同じ時に、ふと郷愁にも似た思いが心をよぎる。

広報委員会だより

このたび、広報委員のメンバーに一部変更がありました。新（府立図書館）井田茂子、旧桑原由美子さんが交代されました。図書館に関する情報「ニース」を広報委員まで、お寄せ下さい。お待ちしております。